

## 第1回 笠間市総合計画審議会 議事要旨

1. 日時 令和3年7月20日（火） 午後7時から午後9時15分
2. 出席者 委員： 小原委員（会長）、川崎委員（副会長）、大関委員、田村委員、内桶委員  
石上委員、柴沼委員、上馬委員、助川委員、関委員、田上委員、常井委員  
長谷川委員、本間委員、小川委員、櫃本委員、松野委員  
笠間市：山口市長、（事務局）市長公室企画政策課 北野、小松崎、森、橋本
3. 会長及び副会長の選任  
会長に小原委員、副会長に川崎委員を選任
4. 諮問 山口市長から笠間市第2次総合計画後期施策アクションプランの策定について諮問
5. 議事（要旨）
  - (1) 前期施策アクションプランの評価について

事務局	資料により説明
会長	前期アクションプランについて、現状値はどう捉えたらよいか。
事務局	前期アクションプランを策定した段階の現状値である。
会長	令和3年7月の現状値ではないため、委員各位においては間違わないようお願いする。
委員	指標について「実施」となっている項目があるが、このように数値でないものはどのように捉えればよいか。
事務局	実施そのものを指標掲としている施策もある。それらについては今後の中で実際の取組の内容を総合計画に反映していくと考えている。
委員	数値で評価しなければ意味がないものがある。その点は注意してほしい。
会長	前回策定の際もその意見があったが、継続性があることから、大きく変更すると比較ができなくなることから、大きく変更できない点がある。それでも少しずつ数値、データを用いるようお願いし、できる限り指標を増やすように変えていただいた。この後、事務局で数字を取れるようならば徐々に変えていければと思う。
委員	市民の実感度はどこで出しているのか。
事務局	4月に調査を実施し、対象者1,000人の内444人から回答を得られ集計した。
委員	実施計画が毎年度の見直しとなっているがなぜか。
事務局	過去の計画では3年間の実施計画を毎年度ローリングさせてきたが、第2次総合計画では、変化への対応強化などの観点から、毎年度見直しを行うこととしている。
委員	幹線道路などは、県の計画、事業ともなる。市、県、国の各計画の整合性を踏まえて策定してほしい。
委員	アンケート対象者の1,000人は無作為で抽出しているのか。
事務局	無作為での抽出となる。

- 委員 無作為だと、年齢や職業によって結果は変わってくると思う。個人的には、関係団体や地域のために動いている人などは、何かしら問題点を把握していると考えられるため、そういう人達からの意見を吸い上げてほしい。
- 事務局 抽出、分析にあたっては年齢などの配慮をしている。今回の計画では、各団体との意見交換の実施を予定しており、結果をフィードバックしながら策定していく。毎年度実施していくか否かは今後の検討課題である。
- 会長 評価についてはいろいろあるが、例えばP36の中小企業資金繰りの数値が10倍になっているが、誤りではないのか。
- 事務局 コロナの影響が考えられるが、担当課に確認する。
- 委員 1人当たり医療費について目標値があるが、医療費が多くなるほど目標を達成している評価は誤りではないか。ボランティアの登録延人数も同様に誤りではないか。
- 事務局 確認し、後日報告させていただく。
- 会長 重要な指摘だが、修正は後日、報告頂くこととして、それ以外の部分については、本日承認を頂くということで良いか。
- 【了承】

## (2) 前期施策アクションプランの骨子（案）について

- 事務局 資料により説明
- 会長 オンライン環境が復旧したため、議事を戻す。オンラインで参加の委員の皆様で、評価についての意見を願う。
- 委員 評価からも公共交通、2次交通の利用者をどう確保していくかが課題である。
- 委員 評価が全体的に低く感じる。目標が高すぎるのか、取組みが進んでいないと捉えるのか。
- 事務局 目標値が高く設定されているものもあり、それについては、取組みを強化して進めていきたいという視点から目標値を設定しているものと推測している。現実には数値が上がってこなかったが、機械的に評価を実施したため低くなっている指標がある。この部分は後期の指標の設定等の検討課題としたい。
- 委員 質問をチャットに上げた。事務局からこの5項目も併せて改めて回答いただくのがよいかと思う。
- 事務局 千葉県内での事故を受け、通学路の歩道整備率の目標値を掲げているのかという質問については、確認して報告する。孤独死や孤立については社会問題にもなっており、取組みも行っているため後期計画に反映していく。生活困窮者については困窮者の減少又は困窮しないために所得の向上を目指すという考え方も必要ではないかということで議論を深めていく。他に廃業対策の必要性、女性活躍推進の目標値が低いという意見は、目標値は、現実取得できる数値、できない数値があり、取得しやすい数値を利用しているところがある。どの数値を達成することで本来の目標を達成することになるのかが重要になるため、可能な限り後期計画で全体的に見直しを計っていきたい。他に人権の観点からのコロナに対する偏見、マイナンバーカードの普及などご意見を頂いた。

会長 数値の部分は確認して報告をしてもらうということ、オンラインで参加の方々も作りの部分はお認めいただいたということではないか。

各委員 【了承】

会長 それでは、骨子についての意見を伺う。

委員 前期と大きく変化しているところはあるか。

事務局 より価値観の多様化やコロナ禍により多拠点居住などが進んでいるが、市は先駆けて当時から受容しながら進めている。何かが大きく変わったということではなく、これまでの取組みを強化するために、手法を変えていくというのが今回の後期の視点の1つであると考えている。

委員 手法とは、具体的にはどういうことか。

事務局 例えば、保健福祉分野では、一層のアウトリーチ型の展開が求められているが、様々な要請など需要が細くなればなるほどマンパワーが必要になる。そういった中で行政サービスの範囲もおおのずと広がっていくが、これまでの手法で5年間サービスの充実を図るためには、デジタルが役立つ可能性があるかなどの手法を変えていく必要があるのではないかと考えている。

委員 アウトリーチを強めるということか。全体的なプランにおいて社会福祉だけでなく、他の分野においても市民レベルにつながるといった考えでよいか。

事務局 つなげていくことで、できる限り多様化してきている要請に答えていきたい。

委員 定住人口が重要であり、教育・子育てについても盛り込んでいただきたい。

委員 観光について、過去から言われていることだが、滞在型、通年型観光に対する具体策がない。

会長 観光から入って移住につながるということは、経験談からも難しい。どこまで反映できるかわからないが、事務局が後期の具体的な策としてブラッシュアップする材料にしたい。

委員 全体的に話が難しい。例えば、漫画など易しくすることができないか。

委員 市民実感度調査は、人口の年齢区分などで補正してほしい。

骨子案については、コロナが今年で収まると思えず、コロナ禍の中の社会でどう日常を過ごせるかなど計画に盛り込まれると良い。

会長 オンライン診療なども含まれる観点だと考える。

委員 コロナの影響は大きいので、評価でも考慮してほしい。防犯に対する市民の時間度、評価が低いですが、笠間市は治安の良い所だという実感がある。

委員 笠間市として、SDGsになぜ取り組むのか、どこまでやるかなどをある程度決めていくと、指標も分かりやすくなるのではないか。スポーツに関して、子供たちの運動能力が最近下がっている。部活が停滞しているからなのかなど、少し考えたほうが良い。

また、計画の方向性に関連する取組みとして、青年会議所では7月28日にLGBTのトークショーを実施する。

委員 コロナ禍でスポーツ大会などがいきなり中止になることが多くあった。健康寿命の延伸のために運動に取り組む方も多いため、どうにかしていきたい。

会長 スポーツは高齢者福祉、健康を含めて様々な施策に絡むため、社会が大きく変わってイク中で、スポーツなどに今後は踏み込んでいけたら良いと考える。

- 委員 様々な取組みがあることが分かった一方で、どこかで聞いた言葉が並んでいるがイメージが湧かない。市民にとって自分事になるものではないと感じる。
- 会長  
委員 総合計画をどうやって市民に共有していくかという点が課題である。
- 市として生活困窮者対策を展開し就労などにつなげており、生活保護世帯は減少しているという評価もできるのではないかと。また、各小学校でスナッグゴルフが盛んで、オリンピックではゴルフ競技で代表選手を2人出している。ゴルフのまち笠間という視点も良いのではないかと。
- 会長  
委員 笠間市の良いところを発見し、伸ばしていくという観点は重要である。
- 教育に関して評価が低い、子育て支援は展開できていると思う。子どもの健全育成については、なかなか取り組むのが難しいが、後期計画の中で、しっかりと盛り込んでほしい。
- 委員  
事務局 訪日外国人に対する記載がもっとあって良いのではないかと。
- 外国人の数は、県内市町村の中では多いということはないが、個別で海外の方を受け入れながら事業をしている方は多々いらっしゃり、そのための施策は必要であり、市民活動課に専門の窓口も設けている。また、珍しいところでは、合気道の修行で訪市し、神社などの清掃を行うといった小さなエリアマネジメントの事例もあるため、共生という観点からも検討を深めていきたい。
- 委員 行政全般に渡る計画であり、主観的な観点と客観的な観点があるとすれば客観的な数字を見て進めていかなければならない。量的な調査と質的な調査があり、量的な調査で終わってしまうが、質的な調査を重ねることによって結果が重要なものになるのではないかと考える。
- 骨子案について、地域産業において、事業所の推移と製造出荷額の推移が対になっている。事業所数は減っているのに、製造品出荷額が上がっているのは、事業所が集約されていることから経済の活性化につながっているかもしれないという見方もできる。もう一つ就業者数の推移と農家数の推移があるが、農家数の減少は避けられない中で、担い手に集約させて農業生産額が増えることにより農業振興につながるという状況もあるため、そのような推移を見ていくことも必要だと思う。扶助費については、5年間で10億程度増加しており、それに対して持続可能かどうかという疑問を持っている。その下に公共施設の更新もある。5年間は良くて、その先の将来はどうかという懸念がある。
- 委員 優先順位をつけて取り組むことが必要である。空家バンクがA評価になっており、移住者も増えているが、これがなぜなのかしっかり検証をして、今後につながる計画にしてほしい。
- 委員 現在の県勢などからもつくば市と笠間市を結ぶ動線が必要であると考え。県の計画では茨城縦貫幹線道路の構想が示されている。また、観光という面では海浜公園があり、そこが中心となっている。観光、農業、工業等からみても大きな動線の整備、確保は重要になる。
- 副会長 家を持つのに困っているという意見があったが、ある会議に参加した際に、日立の方で笠間市に家を持ったという方がおり、笠間の強みは何なのか考えた。歴史があり、自然があり、第1次産業は豊で教育、医療関係も充実している、交通の便も常磐線があるので、さほど遠くなく、笠間市に家を設けたとのことである。また、区長という立場でいうと、少子高齢化ということで10年で30世帯減少している。

現在の72世帯中7人しか子どもがいなかった。これが5年後どうなっていくのか  
と思う。

会長            本日の議事は終了し、次回、議論を深めていく。

6. 閉 会